



2024年(辰年) 教育の展望

「ウェルビーイング」

最近の教育界は、横文字が多くて、その都度スマホで調べなければならないので年寄りには本当に困ります。

《2023～2024年のキーワード》

「調和と協調に基づくウェルビーイングの発信」

Well-being (ウェルビーイング) とは、Well (よい) と Being (状態) が組み合わさった言葉で、「よく在る」「よく居る」状態、心身ともに満たされた状態を表す概念です。

不登校やいじめ、貧困など、子どもたちの抱える困難が多様化・複雑化する中、教育においても一人ひとりのウェルビーイング(教育界では、より良い学びのため、児童・生徒の心がどういう状態であるかをしっかりと把握し、子どもたちが安定した精神状態で学校(園)生活にのぞめるようにすること)を確保することが求められます。



今後5年間、この計画に基づき具体的な教育政策がつけられていきます。ウェルビーイングが教育現場にも浸透していくように、どのような具体的な施策がつけられていくのか注目されます。これからよくこの言葉が出てきますので知っておいてください。

生成 AI が教育を変える



「日進月歩」は昔の話、今や「秒進分歩」です。私が子どもの頃の10年は、今の1年です。世の中はマッハのスピードで進化しています。5歳児が卒園して5年後、10年後世の中がどうなっているか、私には想像が付きません。

文章や画像などさまざまなコンテンツを生成できるAI(人工知能)技術は、目覚ましいスピードで進化しています。教育現場での利用に関しても注目が集まる中、文部科学省は2023年7月に「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」を公表しましたが、すぐに見直しをしなくてはならなくなるでしょう。AIの進化は日単位で進化し続けています。小学校に入学すると一人一台のタブレットでの学習が始まります。生成AIで学校教育も宿題の仕方もすっかり変わっています。

子どもにスマートフォンを持たせれば、保護者はその所在を把握できる一方、自分の住所や親の電話番号を暗記していない子どもがいます。スマホをなくしたら迷子になる。デジタル化は時代の流れですが、大切なことも失われてしまうのではないかと心配する声もあります。

確かにデジタル化で生活は便利になりました。家に居ながら買い物や仕事ができ、いつでもどこでもゲームや動画を楽しむことができます。しかし、ドイツの作家ゲーテは「光強ければ影もまた深し」と書いています。新しい価値をもたらすとされるAIにも強い副作用はあるということを忘れてはいけません。ところがスマホで収集したデータを蓄積し、AI(人工知能)を活用して分析することで様々な価値の創出や課題解決が可能になります。「第4次産業革命に乗り遅れるな」は官民の合言葉です。

2024年「こども園職員の行動指針」をまとめました。

保護者の信頼にこたえ、子どもたちの健やかな成長のために全力を尽くす。

- 1 新しいことへの挑戦を楽しむ 好奇心は推進力になる。
- 2 謙虚な心を持つ 保護者への敬意は視野を広げる。
- 3 研修で今の自分を超越する その成長は子どもためになる。
- 4 働き方の多様性を認める 公私の調和は活力を生む。
- 5 何事にも誠実に向き合う 保育教諭に求められるのは誠実な人柄である。
- 6 チームワークを大切にする つながりは不可能を可能にする。

がんばります!

